

2024 年度 総合型選抜（AO入試）＜第2次選考＞【看護学部】

受験番号	氏名
-	

普段の生活の中においても「伝えたつもりだけど伝わってなかった」ということが起こります。次の文章のように、病気の治療について説明する場面においても医療者側は患者に十分に説明したつもりでも、患者にわかってもらえなかったり、予想外の返答をされる場合があります。このすれ違いの理由について、多くの医療者は患者や家族に問題があるのだと思い込み、何かしらの理由があることに目を向けていないことがあります。医療者と患者がすれ違ってしまう理由と、すれ違わないようにするための対策について、あなたの考えを 600 字以内で述べてください。

がん治療における意思決定とその支援

医師 「検査の結果初期の卵巣がんということがわかりました。あなたの病状ですと、まずは手術をしてから、抗がん剤を使うというのが標準的な治療の方法になります。抗がん剤には脱毛や吐き気といったような副作用もありますが、その点については可能な限り薬で対応していきます。転移もなく、がんを治すことを十分目指せる状況ですので、がんばって一緒に治療していきましょう。」

患者 「……。」

医師 「(迷うような局面ではないだろう。きちんと話すべきことは話したし、とくに問題なく標準治療に進めるはず。)」

患者 「すみません、ちょっと考えさせてください……。」